

シンガポールの環境卵への取り組みについて!!!

立命館慶祥中学校 2年

金澤 和樹

【はじめに】

なぜこのテーマにしようと思ったかという、この度研修を行った発展めざましいアジアの都市国家シンガポールと札幌の気候の違いにある。気候が違うということは、日常生活も相違点が多くまた、環境問題へもいち早く取り組んだ国なので2つの国を比べ、良いところを取り入れることで自分の日常生活も環境問題の視点でも改善につながると思ったからだ。

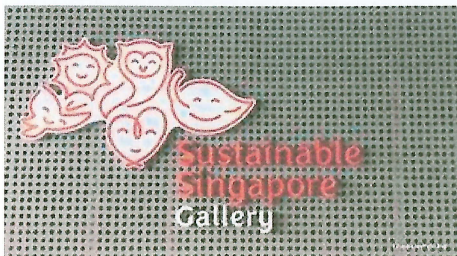
事前に調べたこと

シンガポールは、都市化が進行しているが、自然と生物多様性は配慮されてきていて、ガーデン・シティと呼ばれる植物が多い街づくりは、当時のリー・クアンユー首相が東京の神宮外苑をモデルに構想した。植生が豊かなことは、ほぼ赤道直下にあたる同国のヒートアイランド現象を大きく和らげている。

1969年に始まった環境環境美化運動「クリーン・アンド・グリーン・シンガポール」には次の9つの目的が定められている。1. 清潔の維持…清潔を維持し、ペストを防除しよう。2 公衆トイレの清潔の維持 …清潔に保つトイレ習慣を身に付け、感想を維持しよう。3 10分間の掃除 …ボウフラが湧かないように溜まり水を捨てデング熱を防除しよう。4 節水 …水を賢く使い、節水道具を導入し、節水ラベルの器具を使い、修繕を心がけよう。5 植生 …メンテナンスに手間がかからない植物を植え、化学肥料を使わず有機を保ち蚊が群がらないようにしよう。6 庭と水が価値を上げる街 …我々の生活環境を率先して守ろう。7 リデュース、リユース、リサイクル …必要以上に消費しない、再利用できるパックを選ぶ、リサイクルの紙、缶プラスチックを使おう。捨てる前に考えよう。小さな努力が長い道を作ることができる。8 エネルギーの効率利用…スイッチはこまめに。空調機は 25 度設定に。エネルギーを節約し気候変動の影響を減らそう 9 環境にやさしい交通…公共交通機関や環境に優しい乗り物に乗ろう。運転せず、歩こう。など…

【シンガポールでの調査】

Sustainable Singapore Gallery というスポーツと環境について学ぶことができる施設へ調査をするために連れて行っていただいた。



ここでは、シンガポールブリッジの仕組みや下水道の処理方法、水の再生方法、貯水、緑化政策の状況などの展示がある。そして身近な物ではバディのお父さんの会社やバディの家では、人を感知したらつき、居なくなったら消える蛍光灯を導入したりイベントなどの時にプラスチックの使用をできるだけ抑え、自分の物を持って行ったりする。作業文章をデジタル化することにより紙の使用を削減する。蛍光灯をLEDにするなど…。

【まとめ】

地球温暖化対策として根本的にはシンガポールも日本もほぼ同様な取り組みが多かったが、日本よりも進んでいると感じたのは緑化政策だった。東京の中心地と比べて街に緑がとて多いように思う。これは国の政策でもある。

地球上の全ての国や地域が地球温暖化に対して国家政策として取り組むこと、一人一人が個人として二酸化炭素をできるだけ出さないようにすれば、より早く今の状況から一歩前に進むことができると感じた。

【おわりに】

ダンマンハイスクールでバディと同じクラスで授業を受けたときに感じたのは、授業を受ける態度の違いだった。先生の話聞くことが中心ではあるが生徒同士の意見交流や質問など積極的に授業に参加する生徒が多かった。

疑問に思ったことは、生徒がシャープではなくボールペンを使っていたことと、授業で使ったハングアウトが僕たちには配られなかったことだ。できれば同じ授業を受けているので同じ物があればもう少し理解ができたように思う。

2週間を通して、この国のいいところはお互いを認めながら生活しているところだと思う。人種の違い・宗教の違い・言語の違い(英語は共通語だが)などを認め、大切にしていた。今もなお宗教や文化の違いによる戦争がある中、このような国があること、そしてその中で2週間生活することができた僕たちがその素晴らしさや大切さを広めていく役割を担っていくことが求められていると思う。

そして来年は日本の、札幌の良さを伝え更に親交を深めていきたいと思う。2週間の貴重な体験をさせてくださった全ての方々に心から感謝したい。本当にありがとうございました。

